

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380432

研究課題名(和文)近世イギリスにおける徒弟の世帯からの分離-地方都市の政治的变化との関連で-

研究課題名(英文) independence of apprentices from households in early modern England

研究代表者

米山 秀 (Yoneyama, Masaru)

首都大学東京・社会科学部研究科・客員教授

研究者番号：80158542

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：研究者の基本的関心は、世帯の構成の変化にあるが、これに先立つ研究では農村の世帯の構成要素に焦点を当ててきた。それ以前のは都市の世帯にも着目したが、基本的にはサウサンプトンという一都市にとどまっていた。本研究では初めて政治との関連で都市の世帯の徒弟に焦点を当てることにした。そのためかなり基本的な都市史の枠組みを明確にするため、都市の東西比較を最近専門にされている、イギリス都市史の第一人者の一人クラーク教授を招聘して、シンポジウムを開催して、その成果をまとめることを研究の一つの柱とした。もう一つの柱は、個別都市の実証研究で、特に地域中心都市に関する成果を英米の研究者の前で発表することに力を入れた。

研究成果の概要(英文)： My basic interest was in a change in the construction of the households, in agricultural districts. (exceptionally Southampton) I decided to focus on an apprentice of a household in the town by the relation with the politics by this research. Therefore eastern and western comparison which is a year because I make an outline of quite basic urban history clearly, these days' line, one person Clark professor of a leader of British urban history who becomes clear was invited, a symposium was held and the thing which gathers the outcome was made one pillar of a study. Another pillar put the effort into doing research for demonstration about an apprenticeship in several individual towns of west England (the southern regional center which were also centers of the early Industrial Revolution) as well as presentation of the outcome in front of the researchers of England and US.

研究分野：イギリス経済史

キーワード：徒弟制 地方都市の政治的發展 徒弟制 グロスタ市 エクセタ市

1. 研究開始当初の背景

研究者の基本的関心は、世帯の構成の変化にあるが、これに先立つ研究では農村の世帯の構成要素に焦点を当ててきた。それ以前は都市の世帯にも着目したが、基本的にはサウサンプトンという一都市にとどまっていた。

2. 研究の目的

本研究では初めて政治との関連で都市の世帯の徒弟に焦点を当てることにした。

3. 研究の方法

そのためかなり基本的な都市史の枠組みを明確にするため、都市の東西比較を最近専門にされている、イギリス都市史の第一人者の一人クラーク教授を招聘して、シンポジウムを開催して、その成果をまとめることを研究の一つの柱とした。

もう一つの柱は、個別都市の実証研究で、特に地域中心都市に関する成果を英米の研究者の前で発表することに力を入れた。

4. 研究成果

本研究の主要な課題は、都市における世帯の基本的構成要素である徒弟の世帯からの分離とその背景となった政治的な状況を明らかにすることであった。

世帯からの分離の具体的な形態としては、非登録徒弟という、都市やギルドに登録されない、したがってそれら拘束されない徒弟の増加という形に焦点を絞った。

近世の政治的变化に関しては、17世紀後半の地方都市における国会議員選挙との関連で市民権が選挙権化したことを想定していた。しかし、本研究の遂行中に同時期の王権など中央政府の弱体化の一方で、それを後盾とする地方都市ギルドの後退と、地方都市の権限強化の進行の重要性に気付いた。

非登録徒弟の実態に関しては、Pelling, M., [1998]. *The Common Lot: Sicknes, Medical Occupations and the Urban Poor in Early Modern England*, Longman. のようにその存在を認めるものもあるが、基本的英米の研究者には無視された存在といえる。たとえばワリスの様な有力な徒弟研究者には近年まで言及されていない。そこでまず英米の研究者にその存在を示す必要があった。

まず存在自体に焦点を当てたものとして、本研究に先立つ Yoneyama, M. [2010]. *Who could become Freeman? Non-enrolled Apprentices in Early Modern English Provincial Towns*, Research Paper Series (Graduate School of Social Sciences, Tokyo Metropolitan

University), No. 75, (pp. 1-32) を発表すると同時に、ワリスなどに送り見解を求めた。基本的に存在は認められたが、例外的であるとし批判的であった。

これは Southampton 市という一都市のものであったが、続いて、Exeter Gloucester および Exeter 2 Gloucester という形で相次いで発表した。ワリスもロンドンに関して契

約解除のための法的擬制という形で、ロンドンに関して言及するに至った Wallis, P. [2012]

, 'Labr, Law, and Training in Early Modern London: Apprenticeship and the City's Institutions', *Journal of British Studies*, Vol. 51, No. 4, pp. 815-6. この間日本語で

は、の形で英文報告の内容を紹介した。さらに、ではグロスタ市の非登録徒弟の存在のみならず、それがいかなる意義をもったのかも扱っている。その結果早期産業革命などにも触れることになり、実際には後続する研究の課題となったので、後段で別に扱うことにしたい。

本研究のもう一つの課題は、非登録徒弟が出現する、政治的背景についてである。この点に関しては、研究者は、都市における家族に関しては研究してきたが、都市自体に関しては基本的に研究対象としてこなかった。そのため、ピータ・クラーク教授を招聘して比較都市史研究会と共にセミナーを開き、都市の東西比較などを行った。その成果は

などである。かくして、ウェーバのヨーロッパ都市論は主として、中世のドイツに妥当するもので、直接イギリスを論ずるのは無理なこと、そうした大陸の都市とイギリスの近世都市を比較すれば、むしろ、J. Lucassen, T. De Moor, and J. L. van Zanden, 'The return of the guilds: Towards a global history of the guilds in pre-industrial times', in J. Lucassen, T. De Moor, and J. L. van Zanden (eds.), *The Return of the Guilds* (Cambridge, 2008), 5-18 (pp. 13-14). など

が言うように、強力な中央の政府の下で、弱体な地方都市という像が真実に近いようである。しかし、そうした前提で近世都市の専門家、スウィートによれば、Sweet, R. [1999]. *The English Town 1680-1840*, Pearson. p37.、

この時期(近世特に17世紀後半)の地方都市は、例外的に革命などで中央政府が弱体化し地方都市の相対的強力な時期で、そうした状況下で特にギルドは解体しなかったとしても機能転換があり、上記のような非登録徒弟が出現しやすい状況が生まれたといえよう。

この点の詳細については、現在別の英文論文を用意している。

以上で番号で言及した成果を列挙すれば以下のとおりである。

米山秀 [2014] 「ギルドの衰退と独占ー」首都大学東京、OU、ワーキングペーパー (No. ECN-01-2014-09)

米山秀 [2014] 「徒弟制と市民権の変質 近世イングランド西部の都市の事例

(例会報告)』『比較都市史研究』第33巻第1号。

米山秀[2014]「第12回国際都市史学会(ヨーロッパ都市史協会)に参加して(学会紹介)」『比較都市史研究』第33巻第2号。

米山秀[2016]「移住と徒弟制：日英都市比較の新たな一視角」『比較都市史研究』第35巻第1号。31-33ページ

米山秀[2016]「非登録徒弟と工業化、産業革命以前のグロスタ市の事例」首都大OU.WP.No.ECN-01-2016-11

米山秀[2016]「非登録徒弟と工業化、産業革命以前のグロスタ市の事例」『比較都市史研究』第35巻第2号、9-36ページ
2016年12月

Yoneyama, M., [2016] Proceedings of seminar on Peter Clark's "Cities in East and West" Research Paper Series, Tokyo Metropolitan University Mar-16

Yoneyama, M., [2014] Non-enrolled Apprentices in the early modern provincial towns', Mar-16

P.Clark and M.Yoyneyama(eds.), [2016] Proceedings of seminar on Peter Clark's "Cities in East and West" Research Paper Series, No.160. Tokyo Metropolitan University

[2016] P.Clark(著)米山秀(訳)「東洋の都市と西洋の都市」『比較都市史研究』第35巻第1号4-11ページ

口頭報告は以下の通り

Yoneyama, M., [2014] The decline of the guilds and their monopoly in English provincial towns : 12th International Conference on Urban History(EAUH)Lisbon 5th September 2014.

Yoneyama, M., [2015] Apprenticeship and freedom in early modern English provincial towns : A Japanese perspective, 第17回国際経済史会議、8月7日 於：京都国際会議場。

Yoneyama, M., [2015] Apprenticeship and freedom in an early-modern English provincial town: Gloucester, 11月5日、於：首都大、秋葉原サテライトキャンパス

Yoneyama, M., The decline of guilds and their monopoly in English provincial towns, with particular reference to Exeter(forthcoming)

現在作成中の論文で述べようになるが、非登録徒とその比較史的意義に関してなお検討

が必要である。従来考えてきたような日本の徒弟制理解に立った比較は日本との間では

できない可能性があるからである。この点ではむしろ研究者は日本人であることから盲点になっていたが、報告の際に海外の研究

者から指摘されるまで気づかなかった。今後の課題とせざるを得ない。

なお、本研究においてグロスタ市の非登録徒弟の実証的根拠となるはずであった定住法関係の資料が最終的に使えなかったことは不運であった。何人かのイギリス人研究者の協力を得ることはできた。今後、別の都市を対象を移し、同様な試みを続けたい。次の研究課題「非登録徒弟と初期工業化」の中で取り組むことにしたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

米山秀[2016]「非登録徒弟と工業化、産業革命以前のグロスタ市の事例」首都大OU.WP.No.ECN-01-2016-11 査読なし

米山秀[2016]「非登録徒弟と工業化、産業革命以前のグロスタ市の事例」『比較都市史研究』第35巻第2号、9-36ページ
2016年12月 査読あり

Yoneyama, M., [2016] Proceedings of seminar on Peter Clark's "Cities in East and West" Research Paper Series, Tokyo Metropolitan University Mar-16 査読なし

米山秀[2016]「移住と徒弟制：日英都市比較の新たな一視角」『比較都市史研究』第35巻第1号。31-33ページ 査読あり

P.Clark and M.Yoyneyama(eds.), [2016] Proceedings of seminar on Peter Clark's "Cities in East and West" Research Paper Series, No.160. Tokyo Metropolitan University 査読なし

[2016] P.Clark(著)米山秀(訳)「東洋の都市と西洋の都市」『比較都市史研究』第35巻第1号4-11ページ 査読あり

米山秀[2014]「ギルドの衰退と独占ー」首都大学東京、OU、ワーキングペーパー(No.ECN-01-2014-09) 査読なし

米山秀[2014]「徒弟制と市民権の変質 近世イングランド西部の都市の事例(例会報告)」『比較都市史研究』第33巻第1号。査読あり

米山秀[2014]「第12回国際都市史学会(ヨーロッパ都市史協会)に参加して(学会紹介)」『比較都市史研究』第33巻第2号。査読あり

Yoneyama, M., [2014] Non-enrolled Apprentices in the early modern provincial towns', Mar-16 査読なし

[図書](計0件)

[学会発表](3件) Yoneyama, M., [2015] Apprenticeship and freedom in early modern English provincial towns : A Japanese perspective, 第17回国際経済史会議、8月7日 於：京都国際会議場。

Yoneyama, M., [2015] Apprenticeship and

freedom in an early-modern English provincial town: Gloucester、11月5日、
於：首都大、秋葉原サテライトキャンパス
Yoneyama,M. [2014]The decline of the guilds and their monopoly in English provincial towns : 12th International Conference on Urban History(EAUH)Lisbon 5th September 2014。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 米山 秀 (Yoneyama,Masaru)

首都大学東京・社会科学研究科・客員教授
研究者番号：26380432

(2)研究分担者
(0)

研究者番号：

(3)連携研究者
(0)

研究者番号：

(4)研究協力者
(0)